

どこまで短かけりゃ短編なのさ？

M「長い話を読むのに気が進まない人たちのために！今回は短編を特集します！そして私は究極の短編を発見しました。ずばり『54字の物語』」

F「それは…短編でいいんですか？」

M「知らん。でもこれより短くなると短歌か俳句じゃない？そうすると、図書館的には分類が読み物ではなくなります。でも『54字の物語』はギリギリ読み物。」

F「そーいやなんで54字なんでしょーね？」

T「…9×6？」

F「そうそう9の段。…じゃなくって」

M「まあいいじゃない。この本や『5分後』シリーズみたいにタイトルに時間や文字数が書いてある本は、分量の目安になって手に取りやすそうよ？」

F「『原稿用紙1枚の物語』とかもありますね」

M「原稿用紙1枚というと400字か。読書感想文が原稿用紙5枚で「そんなにたくさん書けないよー」って思ってたけど、これって短編というかショートショートレベルじゃない？」

T「自分で書く分量としてはちょっとツライです…」

M「まあ読むと書くじゃ違うわよね。短編と言っても一人の作家の短編集もあれば、いろんな作家の作品が集められたアンソロジーもある。アンソロジーを読んでみて、気になった作品の作家さんの他の小説を読んでみる…ってのが読書のきっかけの王道じゃないでしょうか？」

T「中学の頃、教室に『きみが見つける物語』のシリーズが置いてあって…けっこう、あさのあつこさんの作品が入っていたんです」

F「あ、それからあさのあつこさんを読むようになったと」

T「…いえ、そうではないのですが」

M「違うんかい」

T「あさのあつこさんが入っているの多いなあという話です」

F「作家さんの中にも短編が得意な人とそうでない人がいますもんね」

M「馴染みのない作家さんの場合、帯とかに「短編集」って書いてあれば読んでみようかなって思うことがあるな」

F「そこがその作家にハマるきっかけになったり？」

M「そ。だから、とりあえず手に取ってほしいわけ。

よろしくね！」

Instagram公開中 ここにアクセスしてね★

<https://www.instagram.com/hondarake55>



←QRコードでも
アクセスできます

ホンダラケ

2023. 6. 1

たたんたん♪たんりん

短かかったら読めそうじゃなあい？短編集だよ。

『放課後探偵団』『放課後探偵団2』

相沢沙呼ほか/著 青崎有吾ほか/著 東京創元社 2010年・2020年刊



F/アイ

F/アオ

学校生活に凄惨な殺人事件はいらないけれど、ちょっと不思議な日常の謎があると楽しいよね？若者世代に人気の作家が学校で起きる事件をテーマに短編を書いたこのシリーズ。内容は、オリジナル作品もあるけれど、実は人気シリーズの-spin off だったり、ちょこっと楽しみも隠れています。そしてこの1と2はその刊行年になんと10年の開きがあります。次に出るのは2030年!?その頃にはまた新しい作家さんが登場しているのでしょうか。それはもしかしたら作家志望のキミかもしれないね。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「旅」

旅も読書も思いがけない出会いが醍醐味。いざいざ!

『旅猫リポート』 有川浩／著 文藝春秋 2012年刊

瀕死の状態だった野良猫のナナは、サトルに助けられ一緒に暮らすようになる。それから5年後、サトルはある事情でナナを手放すことに。ナナの新しい飼い主を求めて、一人と一匹は旅に出る。サトルとナナのやりとり、旅先で出会う人々や景色に引き込まれつつも最後は涙なしには読めない一冊です。

P.N.みかん (高校2年生)



F/アリ

新着図書 Pick Up

『僕たちの部活がなくなる？ だったら自分で放課後をデザインしよう!』

青柳健隆／著 旬報社 2023年刊



375.1/23

「放課後のデザイン」は、自分が思い描く理想の放課後を実現するために必要なもののこと。当たり前のように学校に存在する部活動ですが、時代が進むにつれて、かたちの変化をはじめているのかもしれない。もしも部活動が、今とはまったく別の姿になったとしたら、あなたはどんな放課後を過ごすのでしょうか。この本をきっかけに、「いつか」のために考えてみましょう。

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介し

『十歳までに読んだ本』 西加奈子、益田ミリ、杏ほか／著 ポプラ社 2017年刊

授業、委員会活動、部活動などなど、忙しい学生生活の中で、本を読む時間をなかなかとれないかたはいませんか？そのまま読書から遠ざかってしまう人も少なくないと思います。この本は、あさのますみ、森見登美彦、吉岡里帆をはじめ、さまざまなかたが子どもの頃に読んだ、絵本や漫画、詩集など、大切な一冊について綴ったエッセイ集です。

取り上げられている本は、きっとあなたも知っていたり読んだりしたことがあるでしょう。「懐かしい」から読書を再開してみませんか？



019.5/17

難しいと思われているけれど、実は面白い 名作があるから読んでみてほしいんです。

『コナン・ドイル ショートセレクション』

名探偵ホームズ 踊る人形 より「黄色い顔」

アーサー・コナン・ドイル／著 理論社 2018年刊

シャーロック・ホームズのもとを訪れたひとりの紳士。彼は、隣家で「不気味な土気色で無表情な顔」を見たと言い、それからの妻のあやしげな行動から、自分に隠し事をしているのだと分かって途方に暮れているようでした。「あなたのアドバイスがほしいのです」と頼み込まれた名探偵を待つ真相とは……

名探偵ホームズの、謎への好奇心と解明への行動力にハラハラすることもあります。それも魅力のひとつ。すぐれた洞察力や推理力が短編でも楽しめる作品です。



933/ドイ